

【深泥池水生生物研究会第240回打ち合わせ報告】

開催日時: 2022年4月3日 14:00~16:00

開催場所: 深泥池会館

参加者: 竹門康弘、塩田貞子、成田研一、山田紗友美、辻野亮、大村麗奈、山岸秀明、松井淳、宮本水文、宮本秋津、北尾晃一(計11名)

記録: 北尾晃一

○現状変更申請について(竹門)

本年度に申請する「深泥池生物群集の保全のための生態系管理手法の研究」に関する現状変更申請書の概要と調査項目の確認し、担当者の変更を行った。

1) 水位、水温、水文調査

例年通りの継続申請。

2) 水質調査

例年通りの継続申請。

3) 深泥池の西側開水域と南岸の植生管理とモニタリング調査

昨年からの増加傾向のヒシの除去を追記した。また、辻野先生からドローンによる植生調査時期は、植生が安定する9月の実施が望ましいと提案された。

4) 深泥池浮島の生物相調査

シカの影響が底生動物にも現れうるので、対象を「植物相調査」から「生物相調査」へ変更した。モニタリング1000への提供データを取得するための1m四方の定置コドラート調査について継続を明記し、去年にできなかった調査を行うこととした。当初は、植生調査の頻度を月1回に予定していたが、辻野先生から浮島植生への影響を少なくするため、頻度を減らした方が良いという意見が出た。また、調査時期は植物の同定に適した8月下旬が望ましいとの提案があり、暫定的に8月21日または27日に調査を行うことになった。いっぽう、木道については、踏圧よりも植生への影響が大きいので撤去が望ましいとの意見に従い、4月以降に撤去することとした。

5) 外来魚駆除の効果測定のための水生動物群集調査

例年通りの継続申請。

6) ニホンジカ生息状況の把握調査

例年通りの継続申請。引き続き奈良教育大学の辻野先生がシカの個体数調査を実施することになった。

その他、役員および共同研究者の変更と所属組織の確認を行った。

○浮島のシカ柵について(辻野)

植生保護の目的で浮島に設置したシカ柵について、網目が大きいとシカが絡まる恐れがあり返って危険であるとの指摘があった。そもそも、ホロムイソウについては、以前から保護ケージがあり、その中では生存しているので更なる必要性はないことが指摘された。さらに、保護ケージの外でも生えている場所があることや、保護ケージで守られているにも関わらずホロムイソウが無くなってしまった事例もあることを考えると、シカの食害だけがホロムイソウの植生を制限しているとは断言できず、水質など他の要因も考えられるとの意見が出た。以上を踏まえて、浮島上のシカ柵は4月10日に撤去することにした。

また、浮島のシカ防除の必要性について議論が行われた。現在深泥池に侵入しているシカの個体数が多いという認識については意見が一致した。いっぽう、具体的なコントロール方法や適切な個体数密度については、様々な意見が出た。深泥池への侵入をシカ柵でコントロールし、適切な密度を探るような順応式管理手法が提案された。一方、生態系管理の理念は適切な個体数密度の維持であり、深泥池に侵入するシカを0にするべきという誤ったメッセージにならないよう注意するべきとの意見があった。

○外来魚捕獲作業(成田)

新しい襟網の設置ならびにモンドリの設置を4月10日と17日9:00から実施することになった。網の設置後は、毎週日曜日の午前9時から外来魚捕獲作業を行うこととした。今年は、木曜日の参加人数が少ない見込みのため、日曜日だけ活動することになった。

○オオバナイトタヌキモの除去(塩田)

例年通り、3月23日、24日、25日の3日間に京都市の委託により造園業者がオオバナイトタヌキモの除去を行った。また、今年度の5月以降も深泥池水生生物研究会がオオバナイトタヌキモの除去を実施することとした。塩田貞子さんから、オオバナイトタヌキモの水分を絞るために手動ローラー装置を導入したいという提案があり、良い製品があれば試しに購入することになった。

○今後の予定

4月10日(日) 9:00- 外来魚捕獲作業開始・浮島上のシカ柵の撤去

5月4日(水・祝) 10:00- 池の各所に設置した温度センサー・ロガーの回収・交換

5月5日(木・祝) 14:00- 第241回打ち合わせ会(深泥池会館)

5月下旬-6月上旬 ジュンサイ刈り取り・オオバナイトタヌキモ除去

8月21日または27日 浮島方形枠内植生調査